

第3回江南市運動部活動の地域移行に関する検討委員会議事録

開催日時：令和6年2月19日（月）午後2時～午後3時40分

開催場所：KTXアリーナ 2F 会議室3

出席者：大勝志津穂委員、岩田正武委員、河合荘太郎委員、早川浩史委員、
山田尚代委員、櫻澤弘章委員、安藤善啓委員、岩田一洋委員、
植島禎一委員、横山史明委員 委員計10名
村教育長 松本教育部長
事務局

欠席者：なし

傍聴者数：1名

議題

- (1) 運動部活動の地域移行に関する保護者アンケート結果について
- (2) 教育委員会提出の報告書（案）について
- (3) 今後の予定等について

会議資料

- 資料1 運動部活動の地域移行に関する保護者アンケートの結果概要について（報告）
資料2 令和5年度 報告書（案）

議事内容

議題（1）運動部活動の地域移行に関する保護者アンケートの結果について

○事務局

資料1により説明

アンケートの結果に基づく分析を交え、概要を示している。

アンケートの目的は、市内の小学校4年生から6年生の児童2,631名の保護者に学校運動部活動の地域移行に関する考え方、意向を聞き取り、本市の地域移行の取り組みの参考とするものである。実施時期は、令和5年12月21日から令和6年1月9日までで実施した。

回答者は、小学校10校から合計で857名で、回答率32.6%であった。

結果概要としては、学校運動部活動から地域が運営する地域クラブへと移行していくという考え方については、回答者の約80%にご理解をいただいております、さらに約69%の方が、地域クラブへの参加の意思があるとの答えをいただいた。

しかし、生徒の選択の機会が増えることについては好意的なイメージを持っていただいている一方で、受益者負担の部分では、一定の理解はあるものの、これまで

無償で行ってきた学校部活動と比較しての不満を感じる声が上がっている。

回答率が学校で行うアンケートに対しては少し低調ということで、この取組みへの保護者の関心の低さ、周知不足、学校部活動の改革の必要性に対して、まだ十分にご理解をいただけていないと感じられる。

移行目標年度に向けて不安を払拭して理解を高めていくため、保護者にも生徒にも、機会をとらえて周知に努める必要があると思っている。

解決すべき課題としては、現段階で、地域移行に対して、保護者が持つ不安事項、懸案事項は、概ね地域クラブでの指導内容、受益者負担、開催する会場への移動を含む安全面について、この3点が多数を占めている。この課題への対応を、議論の中心にしていくことが必要ではないかと考えている。

また、大会への参加方法について、国や県の動き、中体連などの主催者の考えを注視して情報を得ていく必要があると考えている。

今後の社会状況を踏まえ、各家庭の考え、現存の部活動種目に無い種目への参加希望等、参加者のニーズを把握するという一方で、生徒の多様な活動を理解していくとともに、持続可能な形態を構築していく必要があるとまとめた。

このアンケートでは記述式でお答えをいただいた内容で、受益者負担についてのお考えをたくさんいただいた。地域移行に一定の負担は必要だと、理解をいただき、指導者に対しては対価が必要ではないかという方が半分、今まで無料の部活動に対して負担をすることへのマイナスイメージの意見が半分、さらに負担は仕方がないとされる方の中でも、お金を払うのであれば、それなりの質を求めたいと競技の上達などのメリットを求めて、負担するなら理解できるという意見が出ている。

次に、保護者の目線で見えた懸案事項は、どんな方が指導に当たるのかという、指導者の質の問題、指導内容の質の問題、それから受益者負担に関する問題、開催会場が遠くなったり夜になったりするのではないかと、移動と安全の問題。こういったところが、多数を占めている。

また、高校受験に向けての内申への影響、部活動がまだ強制参加というような認識をお持ちの意見も出ている。

こういった点については、学校と協力して情報提供しながら、ご理解を得ていく必要があると感じている。

今後の検討については、国県の方針に沿い、学校部活動の地域移行を推進するため、令和6年度も引き続き実証事業を実施していく。今年度7競技、試行実践ということで、ご協力をいただきながら進めているものを、6年度もできれば種目を増やして引き続きやっていきたい。

このアンケート結果を踏まえ、課題の解決及び懸案事項について検討委員会及び作業部会で更なる協議をしていくとともに、これまで以上に教育委員会、学校、それから地域が連携を深めていく必要があるとしている。

これまでの学校部活動で培った、良い部分は継承し、参加者のニーズを把握しながら、地域クラブを作っていく必要があるとしている。

最後に、先進事例等を参考に保護者生徒の理解を深めるための周知や、説明をしていく必要があるとして、アンケートについての分析とした。

○委員

アンケートを実施した結果で、意見の集約をしていく必要がある。課題を分析して話し合っていく必要がある。

○事務局

このアンケートを活用していくことが重要である。概ね地域クラブでの指導内容、受益者負担、開催する会場への移動を含む安全面について、の3点が懸案事項の多数を占めている。

また、回答率の低さから周知が足りないと思っている。

今後さらに検討委員会でも意見をいただきながら課題への取組みを丁寧に進めていきたい。

○委員

学校により回答率の差が大きいということについて、理由の分析はあるか。

○事務局

回答率の差は、年末の忙しい時期であったということや Web での回答率は率が下がるという実績もある。今後実施するアンケートについては、方法を考慮していきたい。

○委員長

その他の意見が無いので、次の議題に移る。

議題（2）教育委員会提出の報告書（案）について

○事務局

資料2により説明

報告書の案については、江南市運動部活動の地域移行に関する検討委員会設置要綱第9条の規定に基づき、今年度の検討委員会での検討結果を教育委員会に報告し、市として方針を決めていく際の参考とさせていただくものである。

本日の会議でこの報告書の案の内容について、ご意見をいただきたい。

まず、令和8年度の2学期を目標として、休日の学校運動部活動を地域クラブへ移行することについて。

このテーマについては、第2回の検討委員会で概ね委員の皆様にお認めをいただいた内容である。補足の説明として、

- ・地域クラブの、運営主体を総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブ江南」を第1候補とする。
- ・地域クラブが発足した種目の休日の学校の運動部活動は原則として実施しない。
- ・目標期日前であっても、準備が整えば設置可能な種目から進める。
- ・市内5校の合同クラブとする。
- ・会場は原則として、学校施設を利用するが、種目に応じて公共スポーツ施設も活用する。
- ・活動時間は、休日（土・日）いずれかの3時間程度とする。

これらの結論として検討委員会では「了承する」としている。

このテーマについては、国県の方針に沿ったもので妥当であるが、ただし書き

として3点、

- ・地域移行を進めるにあたり保護者をはじめ、関係者に対して十分な事前周知に努めること。
- ・市はスポーツクラブ江南が持続可能な地域クラブを運営できるよう、資金面、運営面で十分な支援を行うこと。
- ・地域クラブが設置できない種目、平日の学校運動部活動、文化部活動の地域移行については、令和8年2学期以降からの対応は困難と思われるが、市、学校、地域が協力し合い、生徒のニーズへの対応及び教員の負担軽減のため、可能な限り地域連携を進め、令和11年度を目標として、地域移行するように努めること、としている。

二つ目のテーマとして、令和8年2学期以降、中体連等が主催する大会には、移行した地域クラブでの参加を目指す。

補足事項として、

- ・目標である令和8年2学期までは、これまで通り中体連の大会は学校単位で出場し、令和8年2学期以降、地域クラブが立ち上がった種目については、地域クラブでの参加を目指すというものである。
- ・地域に移行していない種目は、地域連携を進めながら、学校単位で参加する。
- ・学校部活動にも、地域クラブ活動にもない種目は校長の許可により学校単位で参加する。

この結論は「了承する」としている。

大会参加の意義を鑑み、妥当と考えるが、

- ・学校運動部活動の地域移行の全国的な進展による中小学校体育連盟、今、話に出てきた中体連の大会への参加要件、運営方針の変更など、最新の情報収集に努め、地域クラブの運営に反映すること。
- ・大会への参加及び引率については、指導者の責任の範囲と費用負担を明確にすること。
- ・指導者、生徒がともに活動に関して、モチベーションを保つことができるよう、活動の成果を確認する場として、大会への参加については、参加費、旅費等の支援及び情報提供に努めること。

これらの点に留意されたいというただし書きを付している。

三つ目の項目は、地域移行にあたっての懸案事項についてである。

地域移行を進めるためには、さらに詳細な検討が必要となることから、これまで検討委員会でいただいたご意見、また、1月26日開催の作業部会でのご意見、今回のアンケートの結果などからまとめた。

- ・会場となる学校施設の割振りは、学校運動部活動と地域クラブ活動が互いに支障とならないよう配慮すること。
- ・地域クラブに参加する生徒は、クラブ会員として登録し、登録費及び種目ごとの参加費を納入することなど、受益者負担を原則とする必要があること。
- ・生徒及び指導者が、安心して活動するための保険加入に関して、補償内容と負担金額を精査すること。
- ・地域移行の形態、不測の事態への対応等について「スポーツクラブ江南」と十分な意思統一を図る。
- ・指導者の報酬については、1時間当たり1,600円を目安として、活動内容及び活動量に応じて適切な額を設定すること。

- ・参加する生徒に対する財政的支援策を検討すること。
- ・人材（指導者）確保のため市内外への発信を検討すること。
- ・休日（土・日）に活動する文化部についても同様に移行の検討をしていくこと。
- ・移行過渡期においては、学校運動部活動顧問と地域指導者との連携・協力を努めること。
- ・現在の児童・生徒及びその保護者に対し、地域移行について正確な理解を得るため機会を捉えて周知を行うこと。

この報告書に添付書類として本委員会の設置要綱、委員名簿、委員会の活動経過、それから参考資料として基本的な考え方、地域移行のスケジュール、今日お手元にお配りした保護者アンケートの結果を予定している。

○委員長

今年度の検討委員会の検討結果を、教育委員会に向けて報告ということになる。意見等があればお願いしたい。

○委員

中体連の大会については、今まで通り実施されると思うが、大会を運営するのは全て教員である。引率するのも教員である。中体連の大会に関しては、スポーツクラブ江南は関われない。

○事務局

中体連も試行錯誤の段階である。中体連の大会は、状況にもよるが学校のチームと地域クラブのチームが両立して出場できないようである。結論ではないが、現状では学校部活動がある以上、地域クラブが出ることは難しいのではないかと思う。学校部活動に無い種目、例えばバドミントンなどは、地域クラブとして出れるのではないか。

しかし、中体連では地域クラブというのは、一般のボーイズリーグ等のスポーツクラブのことであり、今、部活動に代わり試行実践をしているスポーツクラブ、休日だけ指導者が代わり行うものとは認識が違うものであるため、言葉の定義に注意しなければならない。

○委員

補足だが、地域クラブという名称が分かりにくい。中体連等が言う地域クラブとは、ボーイズリーグ、クラブチーム等のことであり、地域移行を目指す地域クラブとは違う。クラブチーム等はすでに愛知県の大会に出場権がある。ただし、種目により参加できる、できないが混在している状況である。今後、出場できる種目が増えてくると聞いている。

今、目指している地域クラブも学校部活動から離れて、江南市としてのクラブチームという形であれば、地域クラブの引率者が引率してよいとされている。大会では審判も地区に割り当てられる。教員としてだけでなく江南市から出るチームに割り当てられることもある。全て教員が担うことは無くなっていく。

○委員

審判の資格保有者をクラブの中に入れていく必要が生じてくれば、スポーツクラブ江南は大会には関与しないこととしないと、その対応は無理である。

大会は、今まで通り先生でやっていただきたい。

○教育長

今は過渡期であるが、中体連では審判は先生がやることが多い。一部、協会等の審判員が入っていただき、協力体制で大会が運営されている状況である。中体連がある以上、教員も審判として参加するケースも協会・連盟等の審判員が参加することもあると思う。

地域移行した地域クラブが参加する場合、クラブの指導者が引率することは難しいとのことだが、地域移行した場合、学校部活動は無くなるので、教員が出ていくことは基本的にはない。そのため、地域クラブの指導者にお願いしていく。課題となるが、スポーツクラブ江南が依頼した地域クラブ指導者が引率をして大会に参加していくことになる。また、参加したクラブから1名審判を出してください、ということも出てくると思う。

学校部活動もあり、地域移行しようとしているクラブもあるという、過渡期の中で、中体連の考えも整理されてくると考えている。

○委員

今まで教員がしてきた中体連の大会の運営に、スポーツクラブ江南が入ることは難しい。

○委員

大会の規模により、それぞれ事務局がある。この事務局は教員が運営し、今後も継続していく。運営は教員が担い、その中で審判はクラブに協力を願うことはある。中体連という名称で行う場合は、これからも教員が運営をしていく。

○教育長

江南市が目指していることは、当面は、平日の学校部活動は残していく。ただし休日は地域に渡していく。地域クラブとして教員から手を放すということが基本的な考えである。将来、平日も地域に任せていくという考えも出ている。今は、子どもの運動の機会を確保する意味で、平日は学校で教員が顧問として実施している。

大会は休日に開催されるので、休日に教員が引率していくことはない。クラブの指導者が引率することになるが、その中に兼職兼業の教員が入っている場合は、その教員が引率していくこともある。

○委員

そもそも教員の負担を減らすことも目的としている。審判も協会等に派遣依頼をしていかなければ、試合の度に教員が審判をしていたら意味がなくなる。

○教育長

すでに中体連の大会は、例年、協会等に依頼して協力していただいている。休日に部活動を行わなくなったとしても、中体連の事務局は教員が行うので、大会の役

員として勤務することはある。

また、中体連の大会は夏の大会のみである。他の大会は協会や連盟の大会であるため、その大会へ地域移行したクラブが出るかどうかは、今後の選択となる。

○委員

中体連の大会の打合せ、会議等も全て教員が行っている。そこへスポーツクラブ江南として参加することは心配である。そこへは、学校関係者が関わっていただくとありがたい。

○教育長

中体連はこれまでどおり教員が役員を務めるので、スポーツクラブ江南が運営を担うことはない。当日の引率指導や抽選会に代表として参加していただきたいと思う。

○委員

スポーツクラブ江南に顧問として教員が参加できるシステムを作って欲しい。

○事務局

運営に関して、教員のスキルが必要なことはわかる。

移行の過渡期においては、地域指導者と部活動顧問との連携に努める、としている。これまで教員がやってきたことを、すぐに地域で行うことは難しいということは把握している。

校長会を通じて、部活動顧問が地域指導者に対して、指導の引継ぎ及びマニュアルを作っていただきたい、という話をしていく会議を3月下旬に予定している。教員が地域クラブへ行くことになると、多忙化の解消にならない。教員のノウハウを地域指導者に譲り渡していく場を考えている。

○委員

この地域移行の運営主体をスポーツクラブ江南が担うこと、という点は了承されていることを確認したい。

○委員

その経緯は色々あるが、クラブとして受けていくということで了承している。

移行を進めていくうえで、始めは教員の協力がないと不安を感じるため、協力をお願いしたいということである。

○委員

アンケートの中の意見を報告書に反映するため具体的な方法を考えて欲しい。また、種目別に顧問教員と会うとか、具体的な解決策を今後、作業部会で練って細かく詰めていくことが必要である。

○事務局

この報告の中身は検討委員会の中での結果ということで、決まったことを教育委員会に報告して、その後、教育委員会、市で精査して動いていくことになる。

多くの懸案事項については、今後、丁寧に議論していく。

○委員

財政的支援策については、各中学校の実情を聞いた上で検討して欲しい。顧問と地域指導者との連携については、顧問、指導者の考え方によって指導方法が違うので、子どもが混乱しないよう、ある程度統一した指導となるよう配慮して欲しい。

○委員

試行実践をしている現場の中で、顧問と指導者との交流する機会を設けていくことを提案したい。

○委員

学校や校長会の中でも、試行実践をしている場所へ顧問が出向いて、話をしながら指導者と連携していくことから始めていきましょう、と伝えている。

指導方法については、専門分野でない教員も多くいるため、子どもたち主体の活動をメインとしている。顧問は、子どもの見守りと生徒の質問に対してアドバイスするというスタンスで統一していきたい。休日に行う専門的な指導の復習を学校でしていくという方向性を共通理解していくよう校長会で話している。

○教育長

指導者のことは、非常に大きな課題である。実際は、5校の指導者は全て違うため、指導もそれぞれ違う。移行する頃は、連携は必要であると考えている。

財政的支援は、市としてもスポーツクラブ江南に運営をお願いするならば、支援していかないとスポーツクラブ江南独自での運営は難しいと思う。市としても考えなければならない。例えば、登録費やスポーツ保険を市で支援していくことも検討する必要がある。財政との関わりもあるが精一杯のことを考えていく。

○委員

何かあった場合の責任の所在を考える必要がある。すべてスポーツクラブ江南が責任を負うことはできない。

指導者報酬の1,600円の設定の根拠は何か。種目により指導者の人数が違い、指導する時間も違うことがあるため、検討をして欲しい。

○事務局

運営面については、市の職員が活動を手伝うということだけでなく、周知文書の配付だとか事例等の情報提供等の支援を考えている。活動に対して市の職員を送ることは考えていない。指導者報酬の1時間1,600円の設定は国が示した金額で試行的に設定した。活動量に応じた設定を考える場合はスポーツクラブ江南から意見をいただきたい。

○委員

運営主体のスポーツクラブ江南が全種目を委託されるとのことだが、運営主体としてどこまでのことをするのか。

○事務局

今年度は7種目の試行実践を行っている。全ての部活動をやれているわけではない。地域移行していくうえで、試行ができていない種目については、これからの課題となる。今後、愛知県で作る人材バンク等を利用して指導者の確保をしていくことも考えていく。

○委員

移行がある程度進む期間、責任を任せられる事務局として、スポーツクラブ江南の上に別組織が必要になるのではないか。

○事務局

歴史がある部活動が地域に移ることについて、質問等が出れば、教育委員会や学校で話を聞く事になる。責任の所在については、試行実践の中でスポーツクラブ江南と議論していきたい。

まずは、報告書に記載し、まとめた事項についてお認めいただいた後に、詳細を検討していきたい。

○委員

部活動の位置付けを含めて検討していただきたい。保護者の中でも目指すものや位置付けの考えはそれぞれである。子どもたちに、どういうものを残していくのか。

○事務局

これまでやってきた部活動というものの形を変えていくため、皆でこれから作り上げていくことになる。これからもスポーツを楽しんでいくことを継続していくため、皆で検討して作っていく方針をPTA役員の方々にも伝えていただきたい。

○委員

来年度以降、何を求めていくのか、ということを保護者や子どもの考えを聞いたうえで正確な理解を得るための周知をしていくことを考えて欲しい。

○教育長

平日はこれまで通り、学校教育活動の一環として、子どもの健全育成を目指した部活動を学校にお願いする。休日は地域にお任せするという事なので、部活動ではなくなる。ただし、部活動の移行をしていこうという考えから、地域クラブでも健全育成を目指したものであることを理解した上で指導をお願いしたい。子どもが選択する幅が増えていき、その一つとして地域クラブがあるという周知が必要である。

○委員

小学生はあまり部活動に期待はしていない傾向がある。それぞれの考えがあると感じる。教員としては、部活動の負担が無くなれば、精一杯子どもに寄り添い、よりよい授業に取り組むことができる。そのための改革である、という学校の思いを伝えて欲しい。

○委員長

小中学校で1種目だけでなく多種目を経験できるということが大事であり、その経験をさせる場として地域クラブがあればいいと思う。指導では、子どもに考えさせることが重要であり、テクノロジー等を利用することも考えさせればいい。ただ、スポーツをするうえでは、勝利することも醍醐味であるため、その場を設けてあげないといけない。地域クラブ指導者と部活動顧問とが連携して、子どもの成長の場としての大会参加を検討して欲しい。

他に異議や意見がなければ、この報告を教育委員会に出して、さらに懸案事項としてあげられた事項を検討していくことになる。

この報告書の内容についてはこれでよろしいか。

(委員 異議なし)

次の(3)の議題に移る。

議題(3)今後の予定等について

○事務局

お認めいただいた報告書は、4月5日の教育委員会定例会議にて提出する予定をしている。提出は、副委員長の岩田正武委員にお願いしたい。

なお、委員の皆様は、本年6月末日までの任期となっているが、お集まりいただくのは今回が最後となる予定である。これまでの検討委員会の中で貴重なご意見を賜り、御礼申し上げたい。

次年度についても、試行実践と検討委員会を続行していく予定としているが、委員として継続してお願いすることも考えているので、よろしくをお願いしたい。

○委員

アンケートのまとめは、保護者に返す予定はあるか。

○事務局

アンケートの対象である小学校4年生から6年生の保護者に校長を通じて、お礼の文書を出す予定である。また、市のホームページに今回のアンケート結果を公表していく。

○委員

保護者が持つ懸念材料については、方針や今後の進め方についてQA等で分かるように周知していくと、保護者の不安が除かれていくと思うので、様々な方法で周知していただきたい。

○委員長

この1年間、長期間に渡り熱心に議論いただき感謝申し上げたい。

これをもって、第3回江南市運動部活動の地域移行に関する検討委員会を終了する。